

第3回「学校施設の有効活用に関する有識者会議」意見要旨

1. 日 時：令和7年3月24日（月）15:00～16:30

2. 場 所：教育委員会事務局 教育委員会会議室

3. 意見要旨：

■議題1 小学校でのICTを活用した施設開放

◇事務局より、資料「学校施設の有効活用について」を用いて、小学校でのICTを活用した施設開放についてモデル校8校の選定や検証事項等を説明。

- ・中学校でICT化する前から体育館を使用していたが、自分たちで買った備品を体育館に置いていた。ICT化して誰もが使うようになったら、備品・用具に関するトラブルの不安はあって当然。どうしても使われなくなれば鍵付き倉庫に片づけるなど対策が必要。
- ・掃除に関しては各学校でルールがあるが、利用時間の中ですべきことや、事前にきめておくべき。
- ・小学校のICTについて、個人的に良い試みと考える。実際やってみて、他の学校へもどれくらい広げられるか。また、利用者が平等に施設を使えるようになることが期待できる。逆に不具合も検証してほしい。施設開放の利用者と管理者が同一になっている状況を是正できる点も期待できる。

■議題2 他都市での学校開放の取り組み

◇事務局より、資料「学校施設の有効活用について」を用いて、浜松市、東京都、神奈川県取り組み状況を説明。

- ・施設利用費は施設の補修や備品整備などに必要となるため徴収するべき。徴収方法はスマート化できればと思う。納付書では事務負担が課題になる。
- ・地域貢献は学校施設開放運営委員会や利用団体等が当然にやっているものという認識。
- ・神戸市では管理者報酬と運営費を支払っているが、報酬よりも安全面から備品等の整備に力を入れてほしい。
- ・学校への関わり方は人によって距離感が違う。こういった議論を契機に学校に関わる人を増やす方向性に持っていけたらと考える。
- ・地域貢献活動をコミュニティ・スクールで取り組んでいるところも参考にできるのではないかな。
- ・神戸市の方向性が決まったという話ではないが、学校施設開放運営委員会を中心に地域活動をしてきたため、いきなり全てをICT化してしまうのには違和感がある。地域福祉センターも同じような流れだが、地域毎に合わせて実施する方針。学校開放事業も同じく、柔軟に対応したほうがよい。

■議題3 持続可能な施設開放の仕組み

◇事務局より、資料「学校施設の有効活用について」を用いて、誰もが利用しやすい学校開放事業の制度の再構築や不適切な利用の実態等について説明。

- ・市民図書室には現在、限定されたところで市立図書館の予約図書の受け取りサービスがある。これを全ての市民図書室に拡充できれば利用が増える。コストの問題等あると思うが、検討してほしい。
- ・現在も空きがないが、コベカツが入ってくると一般開放の予約枠がなくなる。今も抽選しても当選の確率は非常に低い。料金が無料で使えることが不適切な使用に関係していると思う。キャンセル料のペナルティもないため、とりあえず押さえておこうという人が出て

くる。そういった面でも利用料金は必要。キャンセル料金のペナルティも必要。

- ・無人管理になると、きちんと使ってくれない団体については、ペナルティが必要と考える。ただし、不適切な使用の実態を確認することは難しい。コストはかかるが、防犯カメラの設置も検討すべき。
- ・キャンセル料等のペナルティがあれば、予約したまま使用しないという状態にはならないのではないか。小学校の開放でも毎週使用するようになっているのに、利用のない団体もある。機会の損失になっていると考える。
- ・不適切な利用実態には、駐車駐輪の問題がある。学校の駐車スペースを今後どのように考えていくか、検討が必要。
- ・現状、学校施設開放運営委員会では、誓約書を書かせるルールはあるのか。新規利用団体が利用に関する基本的なルールを理解して、それを承諾した上で利用する制度が望ましい。
- ・従来の開放運営委員会に意義があった。利用者が開放運営委員会を構成していたため、お互いに審議できた。統括的に行政が管理するとなれば、顔を合わせる場がなくなり、ルールの徹底が行いにくくなる。
- ・子供優先というのは理解できるが、地域の方が使う学校という意味合いとして、地域活動も優先にしてもらえたらと考える。
- ・従来の中学校部活は費用がかからないため、今後、部費が必要となるコベカツクラブの利用料は免除でもよい。利用する団体によって利用料免除はあり得ると思うが、学校に貢献しているから免除というのは違うのでは。
- ・子供優先に賛成。普段から子供のいるクラブと大人のクラブは違うと言っている。子供のいるクラブは指導者がボランティアでやっているため利用料を免除してほしいが、大人の団体はあくまで自分の趣味と考える。
- ・子供の活動時間や、活動可能なエリアを考慮しても、あまり遠いところ等は適切でないため、子供優先に賛成。地域に開いていこうという理念はすごくいいと思うので、子供が体育館を占有するのではなく、利用料や予約枠を調整して、地域活動でも使えたらよいと思う。
- ・子供主体の団体の利用は免除、優先でよいと思う。大人の団体は受益者負担がいい。地域コミュニティづくりとして小学校のスポーツイベントを実施したことがあるが、そういったことは地域貢献に当てはまるのであれば、免除対象になるのではと思う。
- ・今、学校の先生は土日の活動に来てくれているが、学校が望んでいる活動として行われているのか疑問を感じる。

■議題4 神戸市における学校づくり および 今後の方向性

◇事務局より、資料「学校施設の有効活用について」を用いて、神戸市の学校づくりのコンセプトや、他都市での学校づくりの考え方を説明し、今後の方向性について提案。

- ・取り組みたい3つ視点はその通りと思う。情報をまとめて可視化し、誰もが利用しやすいことが大事。知っている人が施設利用しているクローズドな状況になっている。情報公開の必要性は非常に強く感じる。
- ・どこまで周知できているかは疑問。学校施設開放運営委員会の活動を、PTA活動が補完していたところがあったが、コロナ以降PTA活動も難しい状態。今後の方向性は素晴らしいと思うが、どこまで定着するか。2世代くらいかかれば、神戸はこういう風に学校を使うものなのだと定着すると思うが、そのような長期的な取り組みを行政ができるのか。広報こうべなどで発信しても、市民の意識に学校の使い方が定着していくには時間がかかる。
- ・学校運営協議会は意見を言える場になり、非常に良い。ただ、学校運営協議会の位置づけや活動などが周りの人に知られていない。きちんと情報発信に取り組み、認識度を高めることで様々な課題が解決される。
- ・学校開放と地域スポーツクラブは切り離した方がよい。管理者と利用者は別であるべきであり、学校運営協議会の中に学校施設開放運営委員会を取り込むと、それが可能。学校運営協議会の中でやっていることと、学校開放の地域貢献事業は似通っているため、取り込むことでよい活動につながる。

- ・事業を行うにあたって、地域に広く募集を行い実施することは、地域貢献活動として一つの指標にならないか。
- ・学校づくりの指針を示すツールとして学校運営協議会が有効。これまで学校開放運営委員会は一定の意義を持ってきたが、新たな仕組みとして学校運営協議会も置かれるようになった。うまく一本化させて運用できたらよい。
- ・三鷹市の学校3部制について、学校教育活動が第一。そのうえで、学校施設をどれだけ有効活用できるかという話になる。学校運営協議会の中で、学校の教育活動をしっかり理解していただいて、学校を利用していただくことが大事。
- ・移行しづらい地域もあると思うが、学校運営協議会で熟議を重ねながら、課題があれば都度修正して、よいモデルを提案してもらえればよい。これが神戸市スタイルだという理想の姿を提案し、定着していくことが必要だと思う。
- ・それぞれの地域状況によって異なるため、ローカルルールで各学校運営協議会の中で検討したら良いと考える。ただ、ある程度基準は必要。具体的なものがないと難しいが、現状の活動や、今後見込まれる活動について分類分けをして検討するのがよい。
- ・学校運営協議会は地域の様々な団体の代表の方が参加されており、議論された内容が地域の人たちには伝わっていないことが問題。代表ばかりがしんどい思いをして会議を重ねるのではなく、会議の結果や活動がわかるツールができれば、もう少しみんなで関わっていけるのではないか。
- ・三鷹市のコモンズという考え方がとても良いと思う。学校というものの機能や認識を変革していこうという意識が表れている。大人の学びの場として、スポーツ団体だけでなく、企業が参加して防災機能の強化を図ったり、子供たちに社会との接点をつくってあげたりと教育自体にも相乗効果がおこる可能性もあると思う。三鷹市の取り組みをもっと知りたいし、神戸市のモデルケースを考える際の参考にしてほしい。
- ・コモンズという考え方に大賛成。教職員は、学校施設は自分たちのものだという意識が強いが、共有空間なのだと意識を変えていかなければならない。こういう議論が学校の教職員にも共有されて、一緒に考えていく形になればよい。
- ・PTAには、話し合った内容が共有される仕組みがあった。学校運営協議会になり、保護者に共有されているか気になっている。他の部署も一緒になって子供の居場所づくりを考えていかなければならない。
- ・教職員も、教育活動を行う時間、一部学校を使わせてもらっており、それ以外は地域に明け渡すのだという時間意識を持たなければならない。そういう意識を持つことがお互いにとって必要。
- ・どこまで市民が学校という場を拠点としていろんな活動ができるのか、神戸型のモデル提案をしてほしい。もちろん教職員には専門職として、働いてもらいたいが、足りないところを学校運営協議会で協議して、担ってほしい部分を形にできるよう議論をすべき。